

産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業

小杉高校の取組みについて

(国の拠点類型：多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保)

1 富山県立小杉高等学校 沿革

1 創立百周年の歴史と伝統

大正8年(1919年)、射水郡長であった南原繁先生の提唱により「**射水郡立農業公民学校**」として開校

2 県内初の総合学科 (平成7年度：全国8番目)

平成7年度に**県内初の総合学科校**に改編

※総合学科

平成6年に普通科、専門学科に並ぶ第3の学科として導入

- ・ 幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視
- ・ 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視

3 N-EXTハイスクール構想 第3類型に採択



創校の父 南原 繁

2 文部科学省「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業」

<視点1> AIに代替されない能力や個性の伸長

- 義務教育の成果を更に発展させるとともに、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成。
- AIに代替されない能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力、他者と協働する力等）の育成、探究的な学びや実践的な学びへの学習観の転換、主体的に学び人生を切り拓く「生徒を主語にした」教育を推進。
- イノベーション創出に向けた「新たな知」を生み出すため、生徒の「好き」を育み、「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養が必要。

<視点2> 我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 2040 年には、いわゆる文系人材の余剰、いわゆる理系人材の不足、地域の経済社会を支えるエッセンシャルワーカーの圧倒的不足が懸念。産業イノベーション人材育成の必要。
- グローバル化も進展する中、こうした人材への国際的な資質・能力の涵養や、世界で活躍できる人材の育成も重要。
- AI 等によって社会全体が大きく変わり、従来の進路選択の見方が必ずしも妥当なくなりつつあるとの危機意識を共有し、進学希望者の理解、保護者や学校関係者の意識改革が必要。
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化が必要。

<視点3> 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 少子化が加速する地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保が必要。
- 不登校児童生徒、特別な教育的支援や日本語指導を必要とする児童生徒の増加、通信制課程の生徒の大幅増加を踏まえ、高校のいずれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢の保障が必要。

(基金での3類型)



3つの類型に
共通する観点

類型1

アドバンスト・エッセンシャル
ワーカー等育成支援

類型2

理数系人材育成支援

類型3

多様な学習ニーズに対応した
教育機会の確保

放課後等を活用し、学校と地域の連携による学力向上・学習支援のための取組等を実施

3 小杉高校が目指すもの

授業で学ぶ



自分で学ぶ



オンラインで学ぶ



友人と学ぶ



体験で学ぶ



それぞれに応じた学び方

「好き」を育む

「得意」を伸ばす

未来へ

- 生徒一人ひとりの**強み・関心の発見・伸長**や、主体的な進路形成につながる**柔軟な教育課程**の整備が求められている。
- 不登校傾向の生徒や特別な支援を要する生徒、外国人生徒など**多様な背景を持つ生徒への支援体制**が未整備。
- ➡ **多様な背景を持つ生徒の主体的な学びの実現のため、「柔軟な教育課程の整備による余白時間の創出と自主活動の促進」、**
「多層的な支援体制の構築」などにより、柔軟な教育課程と学校外のリソースを活用し、ウェルビーイングな学びの場を創出する高校の
パイロットケースの創出・普及に取り組む。

人材育成の現状・課題

- 急増する外国人生徒や特別な支援を要する生徒への支援体制が未整備
- カリキュラム・オーバーロードを变革し、生徒の余白を確保
- 県立高校における個別最適な学びの提供が不十分

具体の事業内容

【拠点における主な改革目標】

- ①進路に満足している生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%
- ②「自主活動：ミラパス」の時間の学びが充実していると感じる生徒の割合 R⑩ 80% R⑬ 90%

【取組内容・創出するパイロットケース】

(教育改革の内容)

- ・教育課程の柔軟化と「余白の時間」による自主活動の促進
- ・AI・デジタル活用による個別最適な学びの推進
- ⇒ **ウェルビーイングな学びの場**を創出

(施設・設備の整備)

- ・次世代ラーニング・ハブ「ココ・テラス (COCO Terrace)」の整備
- ⇒ **外部専門人材**を活用した**多様な学びの拠点**の整備

【他校への普及方策】

- ・カリキュラム開発、多職種連携の円滑な運用フロー等に関する研修会の実施
- ・日本語指導カリキュラムのオープンソース化

【その他】

- ・地域連携コーディネーター、大学生や教員OB等による学習メンター、NPO法人等と連携し、**多層型学習支援プロジェクト**を展開

「ウェルビーイングな学びの場」 ～余白の時間と学校外との連携～



実施体制

協力校	高志のあかり中学校 (令和9年4月開学) 上市高校、富山いずみ高校
主な連携機関 等	富山大学、富山県立大学、関係自治体、NPO法人等

目指す成果

- 生徒への**個別最適な学び**の提供と**余白時間**の創出
- 教育課程の柔軟化**やAI活用モデルの横展開
- 多様な背景を持つ生徒の社会的自立の実現
- 県全域の外国人生徒支援体制を底上げ

5 ウェルビーイングな学びから、生涯にわたる学びへ

高校で

ウェルビーイングな学び

「学びたいこと」「やりたいこと」を
思う存分できること



高校から社会へ

学び続ける人へ

学び続ける力を身につけ、
生涯にわたって学び続ける



社会・人生で

一人ひとりの ウェルビーイングが高まる

自分らしく、幸せに、
よりよい人生を歩むことができる



第3期富山県教育大綱

(第4期富山県教育振興基本計画)

【基本理念】

生涯にわたる学びを通して、
県民一人ひとりのウェルビーイングを高める

6 Kosugi Ambition Project

Kosugi Ambition Project

～ Leading the school of NEXT with the Nearest Duty ～
(the Nearest Duty で次世代の学校を導く)

小杉高校は、文部科学省「産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業」に採択され、改革先導拠点校として教育改革に取り組みます。
大学・地域・企業など多様な主体と共に、生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす学校を目指します。



目指す学校像

**学びたい生徒が集い、
自分だけの学びをデザインし、
自分の未来をつくる学校**

① 誰が学ぶ学校か

“学びたい”と思う心を持つすべての生徒のための学校

- 好きなことをとことん学びたい生徒
- 学ぶことで自分の“得意”を伸ばしたい生徒
- 国籍にとらわれず、言語の壁を気にせずに学びたい生徒
- 周囲を気にせずに自分のペースで学びたい生徒
- 多様な科目を学び、自分の“好き”や“得意”を見つけたい生徒



② どのような人を育てる学校か

生涯にわたって、自ら問いを持ち、学び続けられる人を育てる学校

本校で 学ぶことで 身につける力	好きを見つける力	自ら問いを立てられる力	学び続ける力	学んだことを日常と関連付けられる力
	得意を伸ばす力	自らの学びを調整する力	自らを理解する力	他者と協働する力
	社会とつながる力	自分の考えを伝える力		

Kosugi Ambition Project の 4 つの柱

1 自己設計型の教育課程



興味・関心に応じて学ぶ科目を選択し、
自分だけの学びを設計します。

2 ミラバス (未来へのパスポート)



卒業に必要な修得単位数を 74 単位とし、
余白の時間「ミラバス」を創出。
自分の未来に向けて挑戦します。

3 ユニバーサル教育 (教育のユニバーサルデザイン)



国籍や発達特性、家庭環境など、さまざまな背景を持つすべての生徒が「わかりやすく、学びやすい」授業や教育環境を目指します。

4 教員の「余白」



教材研究や授業改善に取り組み、生徒と丁寧に
向き合うことができる「余白」を確保し、
質の高い教育を実現します。



**生徒が
主体的に学ぶ**
自ら選び、問い、行動する



**自分らしい
強みを育てる**
好き・得意を伸ばし、
自信と力に



**未来を切り開き、
社会で学び続ける人へ**
自ら未来を切り拓き、
社会に貢献する

多様な学びの
実現モデルを、
小杉高校から
全国・世界へ！

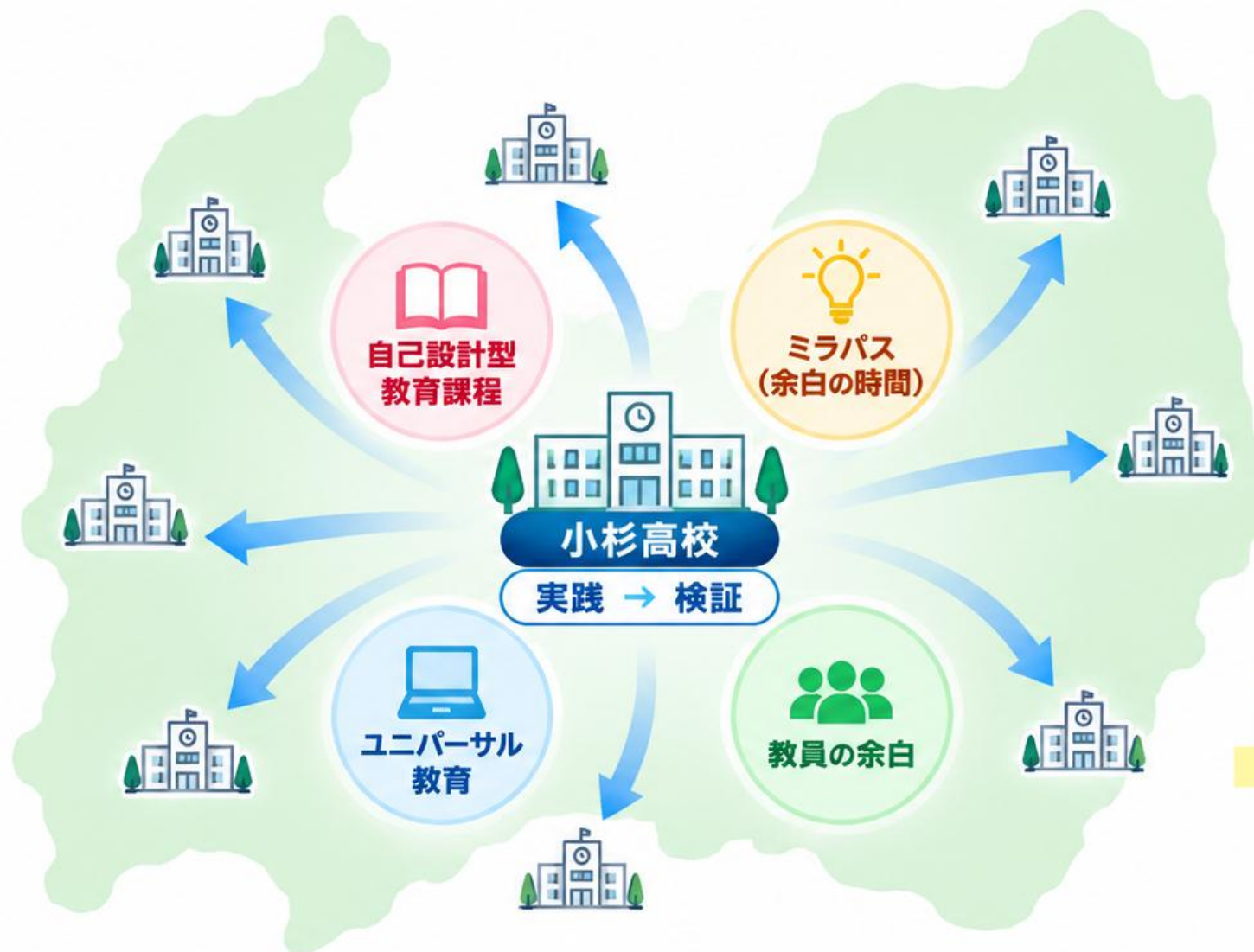
小杉高校は、すべての生徒の可能性を信じ、未来をつくる学びに挑戦し続けます。

7 令和11年度の新しい学校に向けて



現在の生徒にも還元できる取組は、可能なものから順次実践していきます。

8 小杉高校から富山県全体へ



小杉高校での実践で得られた
成果や課題を共有し、

富山県全体の
高校教育改革へ

改革先導拠点として、一つのパイロットケースに